

一

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

著作権等の都合により
公開いたしません。

著作権等の都合により
公開いたしません。

問一 傍線部(1)～(4)のカタカナを漢字に直しなさい。

- (1) イト (2) シンセン (3) スウコウ (4) コリヨ

問二 空欄 (a) (e) に当てはまる最も適当な言葉を、それぞれの①～⑤のうちから一つずつ選

び、番号で答えなさい。

- (a) ① 極めて ② やはり ③ しかし ④ つまり ⑤ ところで

(b)	① つまり	② 極めて	③ 例えば	④ ところで	⑤ しかし
(c)	① けれども	② 例えば	③ むしろ	④ 極めて	⑤ つねに
(d)	① 例えば	② かえって	③ 極めて	④ おそらく	⑤ いずれにせよ
(e)	① しかも	② 例えば	③ しかし	④ なぜなら	⑤ したがって

問三 二重傍線(イ)～(ニ)の「記号」の中から、二重傍線(X)の「符号」という言葉の意味に最も近い意味で使われているものを一つ選び、答えなさい。

問四 波線部(A)「日常のことばの記号性を打破するために」の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 詩人が、習慣としてすでに出来上がっている語形と語義の間の結びつきをこわして、新しい「記号」をつくるために。
- ② 詩人が、情性化した日常のことばの決まりの上に成立する日常の世界を否定し、乗り越えていくために。
- ③ 詩人が、習慣的に定められた「記号」をあやつって、日常生活を安定した落ちつきのあるものにするために。
- ④ 詩人が、新しい「記号」を創り出し、その新しいことば遣いによって、日常の世界を超えていくために。
- ⑤ 詩人が、「焰のつらら」のような比喩を用いて、われわれの世界に新しい内容を加えていくために。

問五 波線部(B)「新しい「記号」が生み出され、その「記号」によって捉えられた新しい内容がわれわれの世界に新たな知見として加えられる」とは反対の内容を表している一文を探し、その初めと終わりの七字を書きなさい。(句読点は含まない)

問六 波線部(C)「「記号」ということばの代わりに「記号現象」(あるいは、「記号過程」)といった用語がよく使われる」と言えるのはなぜか。句読点を含め四十字以内で説明しなさい。

問七 本文の内容に当てはまるものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 日常のことばを使っている限り、われわれは既に多くの情性化した日常のことばに支配されていると考えがちなが、語形と語義の間の習慣はその情性を乗り越えることができる。
- ② 新しいことば遣いは、ある表現があることを意味しているという幻想を捨て、思いがけないことばの知見として捉えることを可能にし、慣習に従うことを示唆する。
- ③ 言語創造は、人類が果たし得なかった「記号」と「符号」の超越であり、いかなる人間の文化もこれに勝るものではなく、日常の世界をより神秘的にする。

- ④ 現代の記号論が、とりわけ関心を寄せるのは、「記号」ということばの適用にためらいを感じさせる、新たな慣習の創造と超越であり、記号現象の二極化に他ならない。
- ⑤ 人間の「意味づけ」する営みとは、朝の小鳥のさえずりに楽しい一日の予告を読みとったり、一枚の葉の落ちていく様子に天下の秋を知ったりすることである。

著作権等の都合により
公開いたしません。

著作権等の都合により
公開いたしません。

注 8 尾竹一枝君……鷗外の知人のひとり

問一 傍線部(1)～(4)に含まれる漢字を、それぞれの①～⑤のうちから一つずつ選び、番号で答えなさい。

- | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| (1) | ① 林 | ② 梨 | ③ 輪 | ④ 鈴 | ⑤ 隣 |
| (2) | ① 団 | ② 談 | ③ 弾 | ④ 壇 | ⑤ 断 |
| (3) | ① 普 | ② 府 | ③ 符 | ④ 譜 | ⑤ 布 |
| (4) | ① 節 | ② 切 | ③ 説 | ④ 設 | ⑤ 雪 |

問二 二重傍線部(ア)「撞著した」、(イ)「弄ばれてゐる」、(ウ)「行摩の袖が触れるやうに」の文中における意味として最も適当なものを、それぞれの①～⑤のうちから一つずつ選び、番号で答えなさい。

- (ア)
- ① その語の意味にひどく混乱したということ
 - ② その語を読んで違和感を覚えたということ
 - ③ 偶然その語に出くわしたということ
 - ④ その語を繰り返し調べたということ
 - ⑤ その語に懐かしさを感じたということ

- (イ)
- ① 興じられていること
 - ② 手でいじくり倒すこと
 - ③ 育まれていること
 - ④ 消費されること
 - ⑤ 避けられていること

- (ウ)
- ① あらかじめ約束された再会をしかと果たすこと
 - ② 偶然に出会い、かすかに関わりを持つこと
 - ③ 長年の友情が深まっていくこと
 - ④ 相互理解が行動に現れること
 - ⑤ 感情を抑えきれずに涙を流すこと

問三 空欄 (a) (e) に当てはまる最も適当な言葉を、それぞれの①～⑤のうちから一つずつ選び、番号で答えなさい。

- | | | | | | |
|-----|------|------|------|---------------------|------|
| (a) | ① 抵抗 | ② 独善 | ③ 動機 | ④ 智識 ^{ちしき} | ⑤ 記憶 |
| (b) | ① 抵抗 | ② 独善 | ③ 動機 | ④ 智識 | ⑤ 記憶 |

(c)	① 抵抗	② 独善	③ 動機	④ 智識	⑤ 記憶
(d)	① 抵抗	② 独善	③ 動機	④ 智識	⑤ 記憶
(e)	① 抵抗	② 独善	③ 動機	④ 智識	⑤ 記憶

問四 波線部(A)「極端は相接触する」とはどういう意味か、二十五字以内で説明しなさい。

問五 波線部(B)「私なしに外物を愛する」の意味として最も適當なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 自分の感情や欲望を一時的に離れ、相手となるものの存在そのものに静かに価値を見いだし、見返りを求めずにそのありようを受け入れて愛すること
- ② 自分の利得や満足を求めながらも、外物に対してそれを正当化しようとする心の働きによって、結果的に外物が愛されるというような間接的な構造を指していること
- ③ 外物の中に自分を溶かし込み、自分と外物とを一体のものとして愛すること、いわば同一視的な愛の在り方のこと
- ④ 外物が人間の意志や感情とは無関係に、自然の理法によって勝手に愛され、存在していること
- ⑤ 他者や外界に対していつさい関心をもたず、自分の内部だけに価値を置くような冷淡な態度をとること

問六 波線部(C)「胭脂を舐めた蛙が腸をさらけ出して洗ふやうに洗ひ立てをし」という比喩の意味として最も適當なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 文芸作品における創作の過程を生物の進化と結びつけ、作家の表現がどのように発展するかを象徴的に述べたものである。
- ② 自らの行為や心理を冷静に観察し、理性的に整理していく過程を生物の行動に重ねて表現したもので、人間の内省を肯定的に捉えたものである。
- ③ 自分の内面を過剰に分析し、細部まで理屈で説明しようとして、かえって人間らしい自然さや感情の流れを失ってしまうような、実証的思考の行き過ぎを例えたものである。
- ④ 科学的な検証をもとに人間の精神活動を明らかにしようとする、当時の実験主義の風潮を比喩的に表したものである。
- ⑤ 宗教的覚醒において自らを徹底的に清め、俗世の汚れから脱することを指す精神的象徴を込めようとしたものである。

問七 波線部(D)「これはサフランと云ふ草と私との歴史である」以降には筆者の思想が表れているが、それをどのように理解するべきか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

① 筆者は、自然界の一つひとつの存在がそれぞれ独立して自己の生命を営みつつも、偶然的な瞬間において互いに触れ合うことがあるという世界観を提示している。サフランと自分の関係をその象徴として描き、人生の偶発的な出会いの意味を静かに見つめている。

② 筆者は、人間が自然の一部として共に生きるべきであるという自然調和の思想を語っている。サフランと筆者の関係は、人と植物の生命の循環を表し、共存の喜びを通して生命の普遍的つながりを讀んでいる。

③ 筆者は、名と実の一致を追究する知的態度を最終的に完成させようとしている。幼少期に「名ばかりを知る人間」であった自分が、サフランという具象的存在を通して、言葉と現実との距離を克服したと考えている。

④ 筆者は、人生のすべての事象が人間の意志によって制御可能であると考え、サフランの存在を通じて人間の知と努力の力を強調している。自然界の偶然や未知の要素は克服されるべきものであるとする立場を取っている。

⑤ 筆者は、宇宙の万物にはすべて霊的な力や意志が宿っており、人間もまたその意志と交感することができるというロマン主義的思想に立っている。サフランの花はその象徴として、人と自然との心的交流を暗示している。